
第 2 6 9 号

2013 年 3 月 25 日

日 本 気 象 学 会

関 西 支 部 ニ ュ ー ス

- 2012 年度 の例会報告
- 第 6 回気象サイエンスカフェ in 関西
報告
- 会員種別について
- メールアドレス登録のお願い
- 住所変更届のお願い
- (社) 日本気象学会入会案内

〒 540-0008

大阪府中央区大手前 4 丁目 1-76

大阪合同庁舎第 4 号館

大阪管区気象台内

日本気象学会関西支部

振替 00980-5-18318

TEL (06) 6949-6595

FAX (06) 6944-2121

ホームページ：

<http://www.ms-j-kansai.jp/>

E-mail：

info@ms-j-kansai.jp

(注：メールアドレスはスパム対策のため全角で記して
います。メール送信の際は半角で入力してください。)

○ 2012 年度の例会報告

〈第 1 回〉 中国地区

第 1 回例会は、2012 年 11 月 17 日（土）に岡山大学理学部で開催されました。本例会の参加者は 35 名で、10 件の一般講演に加えて最後に特別講演が行われました。一般講演は、岩田徹会員（岡山大学）と加藤内蔵進会員（岡山大学）を座長に進められました。大気大循環モデル、地域の降水特性、気象教育、エアロゾル、海陸風、気圧測定、農耕地の炭素循環といった多岐に及ぶ研究報告がされました。これも例年みられる特徴であり、関西支部会員が研究する分野の広さを反映していると言えます。

特別講演は塚本修会員（岡山大学）を座長として、寺尾徹氏（香川大学教育学部教授）によって「四国の局地風 — やまじ風と肱川あらし —」が発表されました。寺尾氏によってこれまで観測された強風現象のやまじ風（愛媛県四国中央市）と肱川あらし（愛媛県大洲市）の気象学的特徴が報告され、特に衛星観測データも活用した風の抽出も含めた非常に興味深い解析結果でした。このような強風現象は特定の気象条件で発生することが多く、同氏による研究成果は今後の予測可能性に重要な示唆を与えるものになることが期待されます。

1 件あたりの発表時間が十分とは言えませんが、例会の終了後に大学構内のピーチユニオンで開かれた懇親会では、発表内容に関する議論も個別に行われました。多数の関係方々に参加していただき、普段なかなか持てない交流の貴重な機会として、今

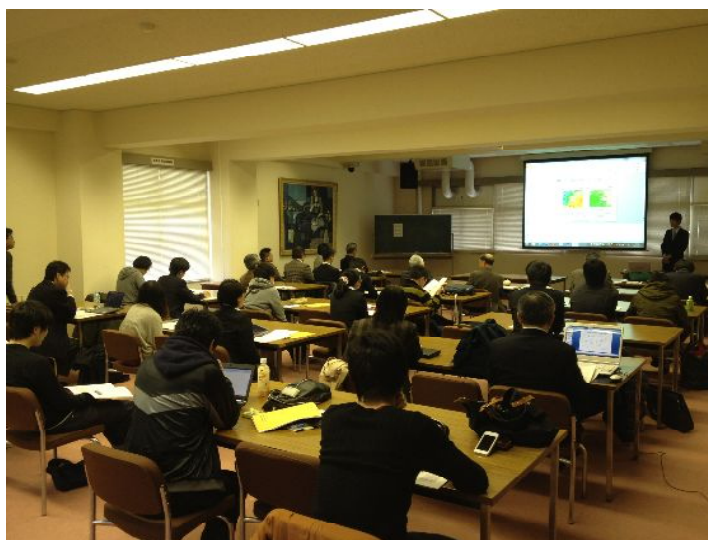
回も本例会が役割を果たしました。最後に、特別講演を引き受けてくださった香川大学の寺尾徹教授と、発表会場並びに懇親会の手配と運営すべてをおこなってくださった岡山大学の塚本修会員と研究室の大学院生・学部生の皆様、また、例会の運営に御支援と御協力をいただいた多くの皆様方に対して、心より御礼を申し上げます。

(中国地区理事 大橋 唯太)

〈第2回〉 四国地区

第2回例会が、2012年12月15日(土)、高知大学朝倉キャンパス理学部2号館第1会議室にて開催されました。气象台関係者、大学関係者など、43名の参加がありました。四国各地からにとどまらず、岡山からのご参加もありました。

高知地方気象台長の若林正夫会員による開会挨拶により始まりました。例会は3つのセッションで構成され、前年を上回る14題の研究発表と特別講演を行い



四国地区例会の発表風景

ました。第1セッション(座長は村田文絵会員(高知大学))および第2セッション(座長は寺尾徹会員(香川大学))は一般講演です。高知県に発生した霧と竜巻に関する研究発表から始まりました。その後、四国の太平洋側に発生する豪雨事例に関する研究が5題続きました。休憩をはさんで、高知大学の学生さんによる剣山での観測結果の報告と、高知県における気候変動適応研究。さらに、松山市のヒートアイランド、肱川あらしの観測、梅雨期の降水量分布にみられる気候変動や、シベリア気団の気候学的な研究が報告されました。最後にベンガル湾のモンスーン低気圧の話題が続き、活発な討論がなされました。

第3セッションでは、佐々浩司会員(高知大学)の座長の下、北畠尚子氏(気象研究所台風研究部)による特別講演「北西太平洋の台風の特徴～主に温帯低気圧について～」が行われました。北西太平洋における熱帯低気圧の温帯低気圧化の過程に関する講演となりました。熱帯低気圧と温帯低気圧の定義に関する指標が示され、北西太平洋における温低化の気候学的特徴が明らかになりました。多くの台風災害事例にも、温低化との関係で理解されうる特徴があることも議論されました。活発な質疑応答のあと、高松地方気象台長の土井雅彦会員より閉会挨拶をいただきました。

例会終了後の懇親会では、おいしい料理を囲んで、气象台、大学関係者と例会の研究発表を話題に楽しいひとときを過ごすことができました。高知大学から多くの学生の参加があり、一般会員と交流して場を盛り上げていただきました。

最後に、特別講演をお引き受け頂いた北畠先生、座長をお引き受け頂いた先生方、その他例会の運営に御支援、ご協力を頂いた皆様に心よりお礼申し上げます。

(四国地区理事 寺尾 徹)

〈第3回〉近畿地区

今年度の第3回の例会は、昨年度に引き続き、海洋気象学会例会、大阪管区気象台近畿地区気象研究会との合同で、2012年12月17日(月)9時30分から17時30分まで、大阪管区気象台大会議室において開催しました。参加者は約40名で、日本気象学会、海洋気象学会、気象台からそれぞれ5題ずつの口頭発表がありました。発表時間は20分、質疑は5分と余裕のある時間配分だったこともあり、進行はスムーズに行われました。



講演の様子

午前中は大阪管区気象台近畿地区気象研究会を行い、大雨や大雪、空港の悪視程、副振動、といった災害につながる現象を題材に気象業務と結びつきの強い発表がありました。午後は、日本気象学会関西支部と海洋気象学会の合同例会を行い、セッション1では、関西支部の大澤常任理事(神戸大学)の座長のもと、気象の分野を中心とした5題の講演を行いました。竜巻の環境場やポテンシャル予報、主成分分析による気候特性、フェーズドアレイレーダなど新しいレーダー観測、大雨の事例解析、低気圧急発達時の構造、と題材や手法は多岐にわたりました。セッション2では、海洋気象学会の香西理事(香川大学)の座長のもと、海洋分野を中心とした5題の講演を行いました。淀川感潮域の海洋調査、西部北太平洋におけるガス交換係数の季節変動による大気海洋間CO₂フラックスへの影響、熊野灘の暖水渦と黒潮フロント、富山トラフ周囲の海潮流調査、波浪による副振動の統計調査、と気象学会としては新鮮な話題が多くありました。気象と海洋はお互い関連していますし、気象台と学会では注目する現象や調査目的も違ってきますが、それだけにさまざまな視点での研究に触れることができ、参加者にとって有意義な例会となったのではないかと思います。

最後に、会場の手配や準備及び例会の運営にご協力いただいた、大阪管区気象台職員、海洋気象学会、日本気象学会関西支部の関係者の皆様方に対し、心よりお礼申し上げます。

(常任理事 竹川 元章)

○ 第6回気象サイエンスカフェ in 関西報告

サイエンスカフェは、科学者などの専門家と一般の市民がお茶を楽しみながら気軽に科学などの話題について語り合うコミュニケーションの場です。

2013年1月26日、大阪心齋橋の英國屋にて第6回気象サイエンスカフェ in 関西を開催しました（日本気象学会関西支部と日本気象予報士会関西支部の共催）。

当日の参加は20名で満席。

大阪管区気象台技術部から須田一人さんをゲストに招き、

「アルプスの風とナニワの空模様」と題して話題を提供していただきました。

大阪管区気象台の竹川さん司会の下、須田さんからジュネーブに住んでいたころのエピソードを交え、ヨーロッパの地形や、低気圧の主な通過経路、スイスの天気予報の様子、ベネチアの高潮のメカニズムや温暖化との関係、世界気象機関（WMO）の主な役割、世界の気象データの流れとそれをもとに日本の天気予報が作られていること等を、スライドを映しながらお話をいただきました。

スイスの天気予報で降水が雪に変わる標高の予測値が表示されている様子や、低気圧の進路が日本ではなかなか見られないようなカーブを描いていく話は大変興味深く、終了後も須田さんにお礼を述べながら、話し込む方々がおられました。

1時間半の短い時間でしたが、参加者からたくさんの好評をいただき、第6回サイエンスカフェ in 関西を閉会しました。

（幹事 家藤 敦章）



講演する須田さんと司会の竹川さん及び参加者の皆さん

○会員種別について

会員の種別につきましては、2006年度理事会・総会において「支部会員の種別化について、2004年8月から既に本部で実施している形をそのまま準用し、今後通常会員のみ選挙権や議決権をもつこととする。」ことが承認されました。このため、通常会員は総会の議決権及び役員選挙における選挙権と被選挙権があり、特別会員にはありません。特別会員から通常会員に、あるいはその逆への変更はいつでもできますので、希望される方は日本気象学会事務局まで連絡して下さい。

○ メールアドレス登録のお願い

関西支部ニュースは年3回（5月、10月、3月）発行予定で、2006年度から関西支部ホームページに掲載して閲覧していただいています。支部ニュース発行、総会・年会・例会などの開催通知等は支部全会員に E-mail で配信しています。まだ登録されていない会員の方は、会員氏名・番号、E-mail アドレスを関西支部事務局まで、ご登録いただくよう重ねてお願いします（関西支部の連絡先などは最初のページをご覧ください）。

○ 住所変更届のお願い

機関誌「天気」などの発送は学会本部事務局の会員名簿に基づいて行っています。学会事務局では会員の皆様の移動状況を早めに把握するように努めておりますが、把握漏れがあった場合には旧勤務地（旧住所）に発送され、旧勤務地（旧住所）の方に転送等の御迷惑をおかけすることになります。会員の皆様におかれましては、転勤等により勤務地（住所）が変わった場合、変更届を速やかに下記の学会本部事務局宛にご連絡いただきますようお願いいたします。

※学会事務局 〒100-8122 東京都千代田区大手町1-3-4 気象庁内

TEL : 03-3212-8341 (内線 2546) FAX : 03-3216-4401

E-mail `met soc-j@aurora.ocn.ne.jp`

(注：メールアドレスはスパム対策のため全角で記しています。メール送信の際は半角で入力して下さい)

住 所 等 の 変 更 届

- | | |
|--------------|------|
| ・会員番号： No. | ・氏名： |
| ・旧勤務地（旧住所）：〒 | |
| ・新勤務地（新住所）：〒 | |

会費の納入など詳しいことは学会事務局にお尋ね下さい。

※学会事務局 〒100-8122 東京都千代田区大手町1-3-4 気象庁内

TEL : 03-3212-8341 (内線 2546) FAX : 03-3216-4401

○ (社)日本気象学会入会案内

ホームページ: <http://wwwsoc.nii.ac.jp/msj/Form/nyukai-j.html>

入会申込書 (個人用)				(社団法人)日本気象学会 FAX : 03-3216-4401			
(太線の枠内だけを記入して下さい)							
個人会員番号		所属支部		受付日	20	年	月 日
				承認日	20	年	月 日
フリガナ				生年月日	19	年	月 日
姓 名				職 業			
性 別	1. 男	2. 女					
郵便物の送付先				(電話)			
〒 -							
現住所 (郵便物の送付先と同じ場合は記入しなくてよい)							
〒 -				(電話)			
勤務先または大学名 (部署、学部等詳細に) (郵便物の送付先と同じ場合は記入しなくてよい)							
〒 -				(電話)			
入会時の「天気」への「住所」の掲載							
1. 郵便物の送付先 2. 現住所 3. 勤務先・大学名 4. 掲載を希望しない							
電子メールアドレス _____ @ _____							
(学会メーリングリストへの登録は学会HP(http://wwwsoc.nii.ac.jp/msj/)からお申し込み下さい)							
会 員 種 別 (希望の記号を○で囲む。賛助会員は会費(4万円以上)を記入)							
1. 通常A (一般) 11. 特別A (一般) 共に (会費 6,900円、「天気」を無償配布) 2. 通常B (一般) 12. 特別B (一般) 共に (会費12,600円、「天気」と「気象集誌」を無償配布) 3. 通常A (学生) 13. 特別A (学生) 共に (会費 4,200円、「天気」を無償配布) 4. 通常B (学生) 14. 特別B (学生) 共に (会費 8,100円、「天気」と「気象集誌」を無償配布) 5. 通常A (高年) 15. 特別A (高年) 共に (会費 4,200円、「天気」を無償配布) 6. 通常B (高年) 16. 特別B (高年) 共に (会費 8,100円、「天気」と「気象集誌」を無償配布) 17. 特別C (会費 6,600円、「気象集誌」を無償配布) 注① 通常会員には総会での議決権、役員に関する選挙権などが有り、特別会員には有りません。 ② (高年) 会員は本人がこの種別を希望し、前年12月末に65歳以上に達してい個人です。 31. 賛助会員 (会費 _____ 万円、「天気」と「気象集誌」から希望のものを無償配布)							
希望支部 (外国在住者のみ記入。希望なしは関東支部。(国内在住者は自動的に決定されます))							
1. 北海道 2. 東北 3. 関東 4. 中部 5. 関西 6. 九州 7. 沖縄							
機関誌の配布開始希望月 (年途中からの会費は月割りとなります)							
天 気				気象集誌			
_____ 号から				_____ 号から			
定期購読希望 (機関紙以外の刊行物)							
気象研究ノート		1. 希望する (_____ 号から)			2. 希望しない		
大会予稿集		1. 希望する (_____ 年春から / 秋から) (_____ 号から)			2. 希望しない		
来年からの会費納入方法							
1. 郵便口座からの引落し 2. 銀行口座からの引落し 3. 郵便局からの振込み 注① 1. 2. の場合は折り返し必要書類をお送りします。記入のない場合は、3. とします。 注② 手数料が安く、全国的に利用できる1. がお勧めです。							
通信欄 (その他)							

月 割 り 会 費	号数	単 価	小 計
天気		円	円
気象集誌		円	円
合計			円

(月割り会費の単価)
 天気 : 一般 580円、学生・高年 350円。
 気象集誌 : 一般 950円、学生・高年 650円、
 特別C 1,100円。